空の境界アフター～if式が違う世界に跳躍したら～

一方通行

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
空の境界アフター～ｉｆ式が違う世界に跳躍したら～

【Ｎコード】
Ｎ３２８４Ｉ

【作者名】
一方通行

【あらすじ】
空の境界のキャラクターたちが他の漫画の世界にとばされ
その世界でキャラクターが騒動を起こす。

キャラクター設定

キャラクター（オリキャラ）の設定

両儀式
幹也と結ばれて１８年が経ち、子供が双子で生まれており、
現在も力は昔のままである。子供たちに力の使い方などを
教えるなどして日中を過ごしている。

黒桐幹也
燈子の下で働きながら探偵業をしておりそちらの
稼ぎの方は上々のようだ、日々、探すことに対しての
スキルはどんどん上達しているようだ。

蒼崎燈子
このごろはなかなか依頼が来なくて暇をもてあましている
が愛弟子の鮮花と紫苑のために修行をつけることでなんとか
すごしている。

黒桐鮮花
今は時計塔に留学をしながらも、日本にたまに帰っては
燈子に修行をつけてもらっている。幹也のことをまだあきらめきれ
ないようす。

オリジナルキャラクター

浦原閃
異世界を旅しているうちに様々な特殊能力を身につけていき
今は自分と対等に渡り合える人物を探している。

式のことを知り空の境界に来るがそのせいで歪が現れることとなる
チート的存在であらゆる槍を扱うことができる。

両儀織也・黒桐巴
ふたごの兄弟で臙上巴と両儀織からもじられた名字は
双子が生まれた際は名字を分けようと式と幹也が決めた
二人とも片方の目に魔眼が発現している。織也は女性で短刀と日本刀を
用いる。巴は男性で居合用の刀を用いる。ちなみに１６歳である。

蒼崎紫苑
蒼崎紫苑の愛弟子であり。養子でもある、時計塔の近くで
捨てられているのを拾われた。魔術もかなり扱えるが基本は
人形を使った攻撃を主体とする。

これからも新キャラなども出てきますが基本はこの八人視点で物語
が進みます
駄文ですが見てもらえると嬉しいです。

プロローグ

閃：この世界でも面白い奴はいなかったな。

いろいろな世界をまわってきたけど閃と同等以上の者はいなかった。

閃：そういえばある世界に直死の魔眼っていう能力を持ってるって噂があったから試しに行ってみるか。

ｓｉｄｅ空の境界

式：織也この頃鍛練ちゃんとやってるのか？

織也：母さんには関係ねぇだろ。

式：俺はどうでもいいけど幹也に頼まれてるからなあ

織也：なんで俺ばっかり言われるんだよ。

巴だってサボってるんじゃないのかよ。

巴；残念ながらちゃんと鍛練だけはしてるよ姉さん

織也：俺だってやりたくないわけじゃないんだよ

母さんの鍛練が厳しすぎるんだよ

幹也；織也その言葉使いどうにかならないのか？

織也：父さん！

幹也：ごめんね式こんな役割押しつけ

式：かまわねぜ、どうせ織也には両儀家の跡取りに
なってもらわないといけねぇし何より幹也の頼みだしな！

幹也：ありがとう式

巴：あいかわらずラブラブだね家の両親は

織也：あぁ、もう結婚して何年も経つのにまだ新婚気分がぬけない
なんて

幹也：そういえば式にお客さんみたいだよ

式：俺に？

ｓｉｄｅ閃

閃：ここが両儀家かそれにしても無駄にでかいな

なんかこの家に入って行った男に聞いてみたらどうやら
ここにいるらしいので呼んでもらうことにした

閃：向こうから人が歩いてきたぞ。

着物の上に赤い革のジャンパーを着ている女の人が
歩いてくる

式：お前が俺を呼んだのか？

閃：あぁ、お前と殺しあいをしに来たんだ。

式：そうか、けど今は無理だ。

閃：直死の魔眼の持ち主は殺し合いが好きだと聞いたぞ

式：今は幹也や子供たちがいるからな

幹也：おい式お昼にするから戻ってきて

式：おう

閃：おい待てよ！

その時だった急に空間が割れてそこに居たもの達をのみこんだ。

閃たちが出会った美少女（前書き）

恋姫の世界で初めてあったのは趙雲であった

閃たちが出会った美少女

閃：ここはどこだ確か両儀家の前で両儀式と話してたはずだけど
そこには、ただ荒野が広がっている、まるで昔の
中国に来ているみたいだった。
閃：あそこで倒れているのは誰だ？
織也：ここは何処だよ？
幹也：織也大丈夫かい？
織也：父さんここ何処だかわかるかぁ
幹也：たぶん昔の中国に似てると思うよ？
閃：お前は確か両儀式といた奴じゃないか
幹也：君は式を訪ねてきた人
あぁそれと俺は幹也ていうこっちは
僕の子供の織也て言うよろしく
織也：織也だよろしく。
閃：（両儀式にそっくりだな）俺は浦原閃だ、よろしく
賊：おいお前らなかなかいい格好しているな
服とその武器をおいて行ったら命だけは見逃してやる

幹也：この時代だから盗賊がいても可笑しくないか？

閃：あんた環境になじむの早いな

頭：おい、お前ら俺らを無視してるんじゃねぇ
デブとチビこいつら殺して身ぐるみはいじまうぞ！

二人：へい

織也：誰が誰を殺すって？

織也は一瞬で間合いを詰めて持っていた日本刀で
頭に切りつけた。それと同時に閃は背中から二又の槍を
取り出してデブとチビに致命傷を与えた、
頭の方は切りつけられた手がバラバラになってしまった
閃の切りつけた箇所は血がどばどば噴き出していた

織也：さっさと消えろ命までは取ったりしねいよ

賊たちは速足で逃げて行った。

閃：そこに隠れてるやつさっさと出てこい

？：まさか一瞬でばれるとは思いませんでした。

幹也：誰ですか？あなたは

趙雲：私は趙雲ていう者です

幹也：趙雲ってもしかして昇り竜で常山の趙子龍？

趙雲：なぜ私の字まで知っているんですか

まぁそれよりもそこの二人私と勝負しませんか？

織也：俺は止めとくぜ

閃：やろよ！俺も槍を少々扱うから互角以上は戦えると思うよ

趙雲：ほうまさか一瞬でりき力量を見極めるとはなかなか

そして、双方ともが間合いをとってすぐさまに

槍を交えたしかしそれは呆気なく勝負がついた

閃の圧勝という形で終わった

趙雲：まさか一合しかもたないとは思いませんでしたよ

閃：趙雲さんもなかなか『星でいいです。』それはなに？

星：認めた相手にしか言うことのできない神聖な名のことを

真名というのです。

閃：じゃあ星もなかなか筋はよかったよ

星：有難う御座います主

閃：主ってなんで

星：私をこんなにも簡単に倒してしまう

あなたに惚れたからです。よろしければ

私も仲間に入れてくれませんか？

幹也：いいんじゃない閃、僕たちはこの時代のこと知らないんだし。

閃：じゃあこれからよろしく頼むよ星

星：はいかしこまりました主
とりあえず近くの町で詳しい
話をしましょう

どうも駄文ですみません式達は幹也達とは別の世界で活躍する予定
ですが
しばらくは恋姫の世界を進めていこうと思います。誤字脱字もある
かもしれません
が楽しんで見てもらえると嬉しいです。

魔眼の織也と天下無双の呂布（前書き）

今回は洛陽の方に行って呂布などに会う話です。

魔眼の織也と天下無双の呂布

それから近くの町に着いたころ賊の話を聞いて道中その道を通るので賊など退治しながら洛陽に向かうことに決定した。
ある一団と賊が戦っていたので参戦したのだが、またそこでも運命的な
出会いが待っていた。

星：主殿の槍は大変私の『龍牙』にそっくりですな？

閃：これは『新・ロンギヌスの槍』っていってね、ある某〇世紀〇ヴァン〇リオンで
使用されていたんだけど流石に大きすぎてね。扱えないからカシウスって人から
本物の聖なる槍のかけら貰って俺専用に作り変えたんだ
その時のモデルがその『龍牙』にそっくりだったんだよ。

星：そうだったのですか。まあこれも何か運命を感じますな主。

なぜかそう言うと顔を赤らめて閃の顔をみる星
そんな星に上っ面だけの笑顔でかえす閃
またその二人をみてなんだか自分だけ取り残された感がある幹也と織也

織也：イチャついてないでさっさと洛陽を目指そうぜ！

閃：織也は何でそんなにイラついているんだ？

織也：別にイラついてねえ！

閃：イラついてんじゃん？

そんな二人の会話を聞いて幹也は安心していた
普段は家族ともなかなか話さない織也が自分から
積極的に話しかけるなんて珍しいのだ
幹也はそんな織也を見て嬉しいやら少しだけ寂しいのやらで
複雑な気持ちで二人の会話を見守っていた。

ｓｉｄｅ？

？：右の部隊さっさと動きいや、もたもたしとると殺されるでえ

閃達の向かおうとする先には官軍と賊が戦っていた。官軍は
なかなか動きが良いのだが今は数で押し切られている。

？：もう少し待ってくれ、あと少ししたら賈駆っちが援軍を
連れてきてくれるからもう少し持ってや

織也：あれは何だ？

星：どこかの官軍が賊と戦っているみたいだが
かなりおされてますな

幹也：助けに行こう

閃：おう！

？：何やあれ急に賊どもの後方が騒がしくなってきたで
今が好機や攻め込むで

部隊：おう

織也：やっぱり雑魚が何人こようが関係ねえな

所詮俺の魔眼から逃げられる奴はいねよ

星：確かに我々三人に勝てるものなどなかなかいないだろう

閃：もう賊たちが後退してきたぞ追うか？

幹也：いや、むやみに追う必要はないだろう

？：そこのお前ら何者や？名とどこの軍かなのれ

織也：俺らはどこの軍でもねえよ。名前は両儀織也ていう

幹也：俺は黒桐幹也でそこの二人が趙雲と浦原閃という名前です。

あなたは？

張遼：張遼言う者や

幹也：もしかして神速の張文遠？

張遼：！！！なんでそんなことしてんのや？

閃：俺らの住んでたところでは有名なんですよ。

張遼：そうなん？まあそれよりも助けてもらったお礼まだやったな

ありがとうな、正直危ないところやったんよ。

幹也：いや、こんなことしかできませんから。
それよりも前から来る軍隊はあなたのところのですか？

張遼：恋っちが援軍で来てくれたみたいや

閃：その人は何者ですか？

張遼：呂布将軍や

閃：飛将軍の呂布ですか？

張遼：そうやけど？

閃：ちょっと決闘申し込んできてもいいですか？

張遼：いいけど、呂布っちは強いで。

それから張遼の紹介で決闘を心良く受けてもらった。まず閃がやったあとで
織也が勝負してみたいというのでそれもうけてもらった。

呂布：・・・・・行く

閃：来い！

今回は星の時とは違い何合も続いて呂布もあとがつかえているから
本気で行くといい方天画戟で槍を吹き飛ばすこれには星だけでなく
織也も驚いただが閃は縮地で間合いをつめて背中から新たな槍を
取り出す。
今度は槍（蜻蛉切）で方天画戟を吹き飛ばす張遼と呂布は一瞬なにが

起こったのか理解できないでいた。しかし、これで勝負がついた

閃：なかなか楽しめたよ流石だよ飛将軍呂『恋でいい』布？

恋：恋、閃に負けただから真名渡す

閃：ありがとう！恋。

恋はそう言われると嬉しそうに微笑んだ

張遼：恋っちが笑ってるの初めてみたわ

その会話が終わると今度は織也と恋が勝負し始めた
今回は呂布の一方的な感じだった。
織也の流れるような刀の舞を軽くあしらう
けれども一向に攻撃は止まない。
一発のでかい恋の攻撃は威力だけでなく
スピードもある。どんどん追い詰められていった
織也は直死の魔眼を発現させた
魔眼で視た死の線と点にそって方天画戟に切りつけた
次の瞬間、恋の武器はバラバラになって
勝負がついた

名軍師登場??（前書き）

呂布専用のあの軍師が出てきます。

名軍師登場??

呂布との一騎討ちが終わり、なんでも張遼がお礼をしたいというので
とりあえず、張遼の住んでいる洛陽に向かうことに決定した。
張遼が言うには自分の主がいる所に士官してみたらどうかと勧められた
ちょうど路銀が尽きてきたしこの時代の状態も知りたかったから
一石二鳥である。その提案を快く承諾した。

恋：・・・・・・・・・閃は何でそんなに強い？

閃：昔の俺は弱虫で今みたいに自分から厄介事には
関わろうとしなかった。そんな俺にも友と呼ぶ者がいた。
そいつは、誰からも信用せれていて誰にでも優しかった、
そんな奴が俺に助けを求めてきたとき、俺はそいつを
助けてやることができなかった。俺は二度とこんな
思いをしない様に力を求めた、あいつと同じように
俺に助けを求めてきた者にその時は手を差し出せるくらい
強くなろうと決意した。

星：主はやはり凄い。

恋：・・・・閃カッコイイ。

閃：俺は償いの仕方がわからないからただ足掻いて
して少しでもあの時の罪を軽くしたいだけなんだ。
結局のところ昔のことから逃げたいだけなんだ。

恋：・・・・閃悪くない人間はみんな最初は弱い

星：そうです。私たちは人間なのですから最初から
強い人間などいないのですから、そすれに、過ちを
おかしたのなら次はしない様に頑張ればいい

閃：ありがとう星に恋（笑顔）

恋：・・・／／／／／／

星：／／／／／／（主の笑顔は凶器だな）

閃達がそんな会話をしているとき
それを遠くから眺める織也の姿があった

幹也：織也も話してくればいいのに

織也：別に俺は閃のことなんてどうでもいいし

幹也：僕は誰も閃君とはいってないんだけど？

織也：／／／／謀ったね、父さん！

そんな会話をしながら洛陽に向かっていた時
前方の方から軍隊が向かってくるのが視えた。
張遼に聞いてみると洛陽から来た援軍らしい
そこから一騎だけこちらに向かってきた。

？：恋殿～～御無事ですか？

閃：あれは誰？恋。

陳宮：ちんきゅ～～き～～～～っく

閃：ぶはぁ

盛大に顔面へキックをくらって血反吐をはく閃、
それを心配そうに診る恋と爆笑する星と織也。

陳宮：恋殿の真名を気安く呼ぶなです。

恋：・・・・・・閃には真名を許したから呼んでもいい

陳宮：しかし

恋：いいって言ったらいい。
それよりねね自己紹介して。

陳宮：解ったのです。陳宮は音々音といいます。
恋殿が真名を許したのならねねも許すのです。

みんなの自己紹介が済んでから
洛陽に向かって歩きはじめた。

洛陽に向かっている途中に星に蜻蛉切
のことについて聞かれた。

閃：あれは俺が住んでた日本って国で（本田忠勝）
って言う武将がつかっていた名槍で止まった蜻蛉が
真っ二つに切れたことからなずけられたらしい
これも本物じゃなくてレプリカ

偽物なんだ、けど同じ刀匠が作ったものだから
切れ味はそこそこなんだよ。

星：主の槍は何処から出てきて
あとどのくらい持っているのですか？

閃：数は数十種で、出場所は教えられない。

星：そうなのですか。

そんな他愛のない話をしながら洛陽を目指した。

名軍師登場??（後書き）

蜻蛉切やロンギヌスの槍についてはインターネットで調べましたが間違っているところもあるかも知れませんがどうかご了承ください。

士官は試験？（前書き）

今回はついに洛陽について閃たちが士官する話です
もちろん士官する相手はあの人です。

士官は試験？

ついに洛陽に着いた閃達はとりあえずここを治めている董卓なる人に謁見することが決まった。張遼が賈駆っていう軍師と取り合ってくれたらしい、なんでも張遼達を助けてくれたことについてお礼がしたいと董卓自身が申し出たようだ。ついでに張遼が士官の話についても言っておいたらしい。

董卓：あなたが霞さんを助けてくれた閃さんですか？

閃：確かに張遼を助けたのは俺だけど？

董卓：ありがとうございます、閃さんのおかげで霞さんの命は救われました。

そう言って頭を下げる董卓

賈駆：月なにもこんな奴に頭下げることないよ

董卓：詠ちゃんお礼は必要なことだよ。

賈駆：でも月、百歩譲ってお礼はしてもなにもこんな奴をうちに仕官させるなんて。

董卓：聞くには恋さんと戦って勝ったとか？

霞：そやで閃も強かったけど織也や趙雲もなかなかの腕やで

織也：父さんの名前が挙がってなかったね。

幹也：そりゃ織也達みたいに戦うことはできないよ

閃：でも、調べることについては右に出るものはいないんでしょ

幹也：なんで閃君がそのことを知っているの？

閃：なんぜでしょう？それよりも俺たちはここに仕官させてもらえるの？

董卓：はいどうぞここにいえ私に仕えてもらえますか？

賈駆：ちょっと月　董卓：詠ちゃん！

賈駆：わかったよ月、けど試験は受けてもらうわよ。

董卓：ありがとう詠ちゃん！

閃：わかった、で試験はどんなものをやるんだ？

賈駆：試験は簡単、三対三の勝負で勝ち数が多い方が勝ち簡単でしょ。

閃：わかった。

先鋒は織也対張遼、中堅は星対華雄で、大将は閃対恋となった。

張遼：恋との勝負は観たけどあれ本気やないやろ。

織也：流石は張遼だね、本気を出すと間違って殺してしまうかもし

れないから。

張遼：それはうちらに対する侮辱か？

織也：違う！こちらの武将は強いことは知ってる。

張遼：じゃあなんでや！

織也：張遼っていったなあ、俺の左目を見てみろ。

そこには、吸い込まれるような薄い青色の瞳が揺れていた

織也：これは魔眼って言ってな、ものの死が視えるんだよ

張遼：ものの死？

試しに無造作に置いてあった花に近づき織也が手で触れると

花弁が散り枯れていく。

幹也となぜか閃以外は驚きを隠せないようだった。

織也：俺は感情が高ぶったりすると、魔眼を抑えることができない

みたいなんだ。だから、本気を出そうものなら誤ってあの花みたいに

なるわけえ、それでもいいのなら本気を出すけど？

張遼：本気の織也と戦って見たい気もするけど、今回は遠慮しとく

わ！

織也：じゃあ始めるとしますか。

張遼：おう、こいや！

そうして勝負は始まった。式はなぜかこの世界に持ってきていた
日本刀を使っていたそれもかなりの業物らしく重い張遼の偃月刀を
受け流していた鈍ら刀だとこうはいかない。
張遼は初めて見る日本刀にかなり驚いているようだ、だけど決して
攻撃を緩めることない、やはりこの時代の武将はなかなかやるよう
だ。
それについていく織也もかなりの者だ。なんせ相手はあの神速の張遼
からの攻撃を受け流しつつ隙あらば切りつけるの繰り返し
しかし、人間の体力は無限ではない先に疲れ始めたのは織也
それは、いくら受け流しているとはいえ張遼の攻撃は速さだけでなく
威力もかなりのものである。ゆえにだんだん織也の剣戟にキレがな
くなって
きた、そこを見逃さずに攻撃の数をここぞとばかりに増やし
一気に勝負を決めに来る張遼、勝負が決ったと思ったその時、
張遼の偃月刀が音を立てながら崩れた。

織也：・・・・・・決ったな。

張遼：魔眼は感情が高ぶらんと出んのとちゃうんか？

織也：別に普段はだせないなんて言ったか？

張遼：騙しよったな織也！

織也：勝ちは勝ちだ。

張遼：まあ、楽しめたからいいか。それより、これからは霞って
呼んでや織也。

織也：わかった霞。

賈駆：嘘、霞が負けるなんて！！
とにかく、次は華雄と趙雲ね。

星：お主が華雄か？

華雄：ああ、そうだが？

星：（これは一勝もらいましたな）いやなんでもない。

華雄：そうか？

勝負は一方的だった星の挑発に簡単にのってしまった華雄
はいいように振り回させてしまい、勝負がつきそうとなった
瞬間に趙雲が急に降参すると言いだしたのだ。

閃：なんで、もうすぐで勝負がつく時になって
急にやめようなんて思ったんだ？

星：それは主が困る顔が見たかった故にやったのですが
あまり効果がなかったようですが。

閃：まあ、だいたい予想はしてたからね。
けど、華雄さんが凄い目でこちらを睨でるけど
大丈夫か？

星：いや～なに、華雄殿はこの程度のことで
根に持ったりするまい。

閃：（かなりの猪みたいだから気を付けた方がいいと思うんだけど）

賈駆：これで同点ね。

恋：・・・・・・・・・・・・次は負けない。

そして、最後の勝負となる恋と閃の戦いが始まった
閃のもっている武器は二つ確認されていて、しかも
恋は一回しか見てないのに閃の攻撃が癖に気付いた
らしい。しかし、その程度で勝てる相手ではなかった
閃が取り出した武器は今まで出した武器ではなく
新しい槍であった。その槍は先の方が五つに分かれた
なんでもブリューナクって言う槍らしい
恋もなかなか粘っているが圧倒的に閃の方が強くて
恋の攻撃は閃に届く前にその槍に叩き落とされる。
恋が見つけた閃の癖も実は恋にあえてばれ易いように
仕掛けた罠だった。いくら恋が強いからといって
自分よりも遥かに強い閃が自分の癖をばらすわけなかったのだ
最後はなんと恋の体力負けと言う結果に終わった
どちらも本気の戦いを演じたが、所詮は命の賭けない
一騎打ちでは両方ともフルに力をだすことができなっかた
ようである。

閃：これで俺たちは董卓さんに仕えてもいいんだな？

董卓：この勝負は私たちの負けなので閃さんのお好きな
様にしてください。私は月といいます。

賈駆：詠よ、これからは宜しく、勝負に勝ったからって

いい気にならないでよね。

月：・・・・・詠ちゃん？

詠：わかってるよ月。仲良くすればいいでしょ。

月：うん。

閃：月はかわいいな。ナデナデ

月：・・へぅ／／／

詠：ちょっと、何で月に触ってんのよ・・＃

閃：何って可愛かったからつい。

星：そうですぞ主（私だってまだ撫でてもらったことないのに）

閃：じゃあ撫でて褒めてあげればいいのかな？

星：人の心を勝手に読まないでください（主は油断も隙もないですな！）

恋：・・・・・・・・恋も閃に褒めてほしい。

閃：恋はよく俺の斬撃に耐えられるようになって偉いぞ。

恋：・・・・・恋エライ？

閃：恋は偉いぞ。ナデナデ

恋：・・・・・・・／／／

閃：織也もありがとな。ナデナデ

織也：俺を子供扱いするじゃねぇ／／／

幹也：そんなこと言って実はかなり嬉しかったりして？

織也：そんなわけねぇだろ。それよりも父さんは
どうするだよ？

閃：幹也さんなら俺専属の諜報員になってもらうように
決ってるから大丈夫だよ。

幹也：閃君、そういうのはまず僕をとうしてからにしてよ

閃：でも、金がないと困るだろ（それに他の勢力の
事も気になるし）とにかく働き次第で月に雇って
もらえばいいじゃない？

とにかく士官の試験は無事に終了した。
次の日から城で働かしてもらうことと
なった。

士官は試験？（後書き）

久しぶりに投稿します。誤字脱字があると思いますが
見つけ次第直していきたいです。あと趙雲や呂布のキャラが
違うかもしれませんがそこは大目に見てください。あと２から４話
ぐらい書いてレギオス編に入りたいと思っています。
次の話では武器の真名など出したいと思います。ｆａｔｅみたいに
したいとおもいます
オリジナルの武器の真名もあるのでこうご期待。
駄文ですが楽しんで見てもらえるとうれしいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3284i/

空の境界アフター～if式が違う世界に跳躍したら～

2010年11月12日11時12分発行